

平成19年度 手づくり郷土賞 【地域整備部門】 選定箇所概要 (全7選)

奥州街道・羽州街道 追分 (福島県・桑折町)



絵図(諸国道中商人鏡)を元に復元された追分



整備前の状況

一般住宅となっていた奥州街道から羽州街道への分岐点(追分)を、「古の街道」にちなんだまちづくりの大いなる財産にしようという地元住民の熱意と自治体の協力により、道標、柳の木、御休所等を、絵図や地元の方の話をもとに忠実に復元し、往時を偲ぶことが出来るように整備しました。地域の方々の協力を得て維持管理が行われるとともに、地元はもとより、東北各地から街道や歴史愛好家が訪れる場所となっています。

上谷戸親水公園 (東京都・稲城市)



上谷戸親水公園



地域住民によるホタル育成状況

豊かな自然と歴史を偲ばせる郷土景観を活かしたまちづくりを進めるため、ニュータウンの開発から本地区を除外し、上谷戸川とその周辺の里の原風景(水田、竹林、屋敷林等)を保存・復元し、自然観察や水遊びが出来る親水公園を整備しました。公園内に設置された体験学習館を活用した餅つき、竹の子堀等イベントを開催するなど、住民の交流の場としても活用されています。

町田市公共下水道本町田2号雨水幹線 (東京都・町田市)



せせらぎ緑道「なかよし散歩道」



総合学習での利用風景

水路整備にあたって、地域の憩いの場及び環境学習の場の創出を目的として、地下に「雨水幹線」、地上に湧水を利用した「せせらぎ緑道」の2層構造による親水機能を有した水辺空間を創造しました。また、周辺にある自然施設とを結び散策路として位置づけ整備したことで、より多くの人に町田の自然を発信できる施設となっています。

道の駅ようか 但馬蔵 (兵庫県・養父市)



養父市の古い町並みになじむ「蔵」をイメージ



近隣農業高校の学習の場としての活用

「道の駅ようか但馬蔵」は整備にあたりユニバーサルデザインの考え方を取り入れるとともに、PFI手法により一体的な施設計画、動線計画を行い、利便性の高い施設となっています。また隣接する農業高校との連携により、生徒による生産品の直売や実習の場としての活用といった産学協同や、災害時の防災拠点としての位置づけがなされており、多機能な要素を持った道の駅となっています。

本町・祇園丁石畳通り (島根県・津和野町)



本町・祇園丁通り



戦国時代から伝わる鷲舞神事

津和野町は「山陰の小京都」と呼ばれ、城下町の街並みを残し、通り名を持った通りが多く存在しています。本町・祇園丁通りについては、街並み保存を核に、石畳舗装や無電柱化など景観に配慮した歩行空間の整備を行いました。地域の人々と協同して通りを身近な生活空間として質の高いものにしていくとともに、地域活性化を図っています。

松山ロープウェー街 (愛媛県・松山市)



松山ロープウェー街



沿道の高校生による毎朝清掃活動

重要文化財 松山城へ登るためのロープウェー駅舎までのメインエントランスとして、賑わう地区であったが近年空き店舗が目立つようになったことから、地域コミュニティ促進と観光客が快適に長時間回遊できる空間づくりを目的として、行政と住民が協同となり、景観整備を行いました。利用客数の増加や空き店舗率の減少など、本取り組みにより、地域活性化に弾みがついています。

国博通り (福岡県・太宰府市)



国博通り



電柱類地中化によりすっきりした家並を形成

「九州国立博物館」が設置されることを契機に、市内のどこでも歴史や文化を感じることができ、誇りと愛着をもてるまちを創ろうという「太宰府市まるごと博物館」計画の一環として、点在する歴史資源と一体となったりニアパーク(細長い公園)となるよう、国博通りを整備しました。周辺の建設物についても景観配慮のガイドラインにより、住民の協力を得ながら景観形成に取り組んでいます。

平成19年度 手づくり郷土賞 【地域活動部門】 選定箇所概要 (全9選)

文化も発信できる港まちづくり(北海道・室蘭市)



倉庫でのジャズクルーズ

フェリーをスクリーンにしたウォーターフロントシアター

室蘭港を中心に製鋼業等で発展した室蘭市において、工場の人員削減などにより失われつつある町の活気を取り戻そうと、港を活動の中心に文化を発信し、中央埠頭に人を集めることで周辺市街地を含めて町を活性化させる取り組みを行っています。中央埠頭と市街地の一体化を図り、港を市民に開かれた施設として活用することで、産業・流通の港だけでなく文化も発信できる港まちづくりを目指しています。

霞ヶ浦湖岸保全及び環境美化活動(茨城県・行方市)



環境美化活動状況

湖岸保全状況(木杭を打ち砂浜の流出を防ぐ)

「霞ヶ浦をきれいにするには、周辺住民が一体となって取り組まなければならない。そのためにはまず、自分たちが動いている姿をみせない」として、沖洲地区の住民有志がゴミ拾いを始めました。行政にも働きかけながら、湖岸清掃だけでなく、健全なヨシ原の保全、砂浜保全活動にも取り組んでいます。近年では環境学習の場やレクリエーションの場としてなど、住民に親しまれる湖岸になっています。

黒塀プロジェクト

(新潟県・村上市)



大工に任せるのではなく市民の手による作業

黒塀化した小路を活かした「宵の竹灯籠まつり」

城下町の歴史漂う小路でありながら、ブロック塀により小路の魅力が活かされていないと感じた市民が立ち上がり、黒塀へ変えようという活動が起こりました。ブロック塀に板を打ち付け黒く塗り、外観のみを黒塀に変える方法で、少ない資金でありながら、市民の力で広い範囲の景観向上を図っています。また、黒塀の小路をライトアップする「宵の竹灯籠まつり」を実施するなど魅力を高める活動にも取り組んでおり、黒塀の小路は村上市を代表する風景として定着しています。

大道芸ワールドカップin静岡(静岡県・静岡市)



街全体がステージとし人が行き交う場で演技開催

市民ボランティアによる大会運営

「人の集まる街づくり」を具体化するため、「文化エネルギーによるまちづくり」、「様々な表現を包括したパフォーミングアーツ(大道芸)によるまちづくり」という考えのもと、市民発案により街全体をステージとしたイベントとして始まりました。市民ボランティアにより運営され、世界的にも知名度のあり、静岡の秋を彩る、なくてはならないイベントに成長しています。

アカタン砂防歴史遺産利活用(福井県・南越前町)



アカタン砂防での体験学習

砂防体験学習

明治時代に造られた「アカタン砂防堰堤群」を活用しながら、自然の景観にだけ込んでいる美しい砂防の歴史遺産から先人たちの暮らしを学ぶことを目的に、土砂災害に関する防災教育や小中学生の自然学習、地域住民と都市住民との交流活動など展開しています。草刈りなど維持活動や散策路・案内板等の整備や防災意識の啓発等、手づくりの積極的活動を進めています。

ひつじのいる河川敷が生み出す地域コミュニティー(大阪府・和泉市)



ひつじの放牧されている松尾川河川敷

地元青年団が主体となったホテルの育成活動

松尾川で市民に親しまれる公共空間の創出を目指した河川敷整備が行われたのを機に、この河川敷を地域の活性化に活用できないかと、町内会と行政が連携し、「ひつじを用いた河川の除草」と、「ひつじの放牧によって地域住民に河川に親しみを持ってもらおう」との考えにより、羊の放牧を行っています。町内会がひつじの世話や河川敷の清掃活動を行うほか、河川敷でのイベントを開催しています。

あこう絵マップコンクール(兵庫県・赤穂市)



公開審査会の状況

絵マップ(06最優秀作品)

子どもたちが自分たちの住むまちを実際に歩いて調べたり、地域の老年寄りや大人たちに聞き取りしたり、探検したり、まちなみや歴史を調べたりした、様々な体験を基に、子どもたちの感性や創意工夫を活かした絵マップをつくり発表するコンクールです。公開審査会でたくさんの人の前で発表する体験を通じて、子どもも大人も地域の魅力を再発見し郷土愛を育成し、楽しみながらまちづくりに取り組んでいます。

丹波ゆかりの赤米栽培を通じた公園づくり(兵庫県・篠山市)



県立公園内に棚田を復活

地名(丹波)の謂れとなった赤米を栽培

県立公園を整備するにあたって、丹波ならではの取り組みをしようと、地元自治会や地域活動団体などがメンバーとなり、「丹波」の地名の謂れ(赤(丹)い稲穂がなびいて波打つ)を活かした赤米栽培を通じて、公園整備の一貫として棚田整備を行い、ふるさと丹波の景観再生を行っています。また、地元小学生の夏休み体験活動や、一般参加の田植え、収穫祭といったイベントなどを実施しています。

門司港レトロ地区の観光振興・地域活性化(福岡県・北九州市)



屋外イベントで賑わう門司港レトロ

ナイトファンタジー(夜間景観の整備)

歴史的建築物である門司港駅等の保存活動に端を発し、行政と住民が連携して地区の活性化を目的とする「門司港レトロ倶楽部」が発足しました。公共空間の整備や夜景景観づくりなど、事業計画に地元住民の声を反映し、現在においても、観光振興・地域活性化の面で、地域に根付いた社会資本の活用における中心的な役割を果たしています。こうした活動により、門司港は九州を代表する観光地として成長しています。

平成19年度 手づくり郷土賞 【大賞部門】 選定箇所概要 (全11選) (1/2)

利根別川千本桜並木道 (北海道・岩見沢市)



利根別川千本桜並木道

グリーングリーン作戦による清掃と花植え

手づくり郷土賞受賞後も、子どもからお年寄りまで広い世代の市民によって良好な維持管理が行われています。毎年、花市の開催と併せて行われるグリーングリーン作戦も市民のイベントとしてより定着し、環境美化への意識の高まりにもつながっています。また平成15年には、市民が選んだマイプロムナード(私の散歩道)にも選定され、市民にとって親しみのある散歩道となっています。

材木町コミュニティ道路 (岩手県・盛岡市)



材木町コミュニティ道路

コミュニティ道路で開催される「よ市」(毎週土曜日)

商店街の衰退に歯止めをかけようと、毎週土曜日午後商店街内の道路を歩行者天国化し「材木町よ市」を開催しています。官民一体となって取り組んだコミュニティ道路の整備により、商店街の活性化は促進され、整備前は3,500人/回だった「よ市」入込客数が、4,500人/回に増えています。他の観光施設と連携した観光スポットとなるなど、地域住民のみでなく観光客にも人気の高い通りとなっています。

大野産業デザインセンター (岩手県・洋野町)



大野産業デザインセンター

体験工房でのものづくり

地域住民が自らの生活を豊かにするため「一人一芸の里」構想により、地元雇用や農業振興を目的に地域資源を活用した積極的な地域づくりを行っています。当センターは産業活性化拠点施設として整備され、地場産品による特産品の開発の外、体験工房や新鮮な農産物を販売する産直施設による様々な交流の場として利用されています。また、当センターを中心とした地域一帯を「おおのキャンパス」と名付け、周辺地域と連携した地域の活性化に取り組んでいます。

信玄堤 (山梨県・甲斐市)



信玄堤

「おみゆきさん」での信玄太鼓

最古の大規模な治水土木遺産「信玄堤」に沿って堤を強固にするために植えられたケヤキの巨木並木が現存し、「お林」と呼ばれ親しまれ、美しい自然に触れ合える地域の人々の憩いの場となっています。春には伝統祭礼「おみゆきさん」が毎年盛大に行われており、自然への畏敬と共生の歴史、地域文化の継承の場として、地域の貴重な遺産となっています。

旧三国街道須川宿堰 (群馬県・みなかみ町)



須川宿堰

地域住民による清掃状況

須川宿堰は地域の生活用水として親しまれ綺麗に管理され、また、手づくりを体験できる「たぐみの里」などを訪れる観光客に喜んでもらえるよう、花を植えたり、地域住民が自らの手とアイデアにより堰を美しく管理しています。近年は電柱移設や景観に配慮した舗装等を行うなど、魅力的な空間づくりを図っており、手づくり郷土賞受賞時に約20万人であった観光客数が現在は約45万人を数えています。

妻籠宿の家並 (長野県・南木曾町)



妻籠宿の家並

文化文政風俗絵巻之行列

「売らない、貸さない、壊さない」の3原則を住民自らが貫き、家並の美観を守りつづけています。また、「妻籠を愛する会」が中心となって、妻籠宿を活用し、文化文政風俗絵巻之行列などのイベントを継続的に実施しており、多くの参加者を集める地域の行事として定着しています。取り組みの成果により、手づくり郷土賞受賞後には観光客数が大幅に増加するなど、地域の魅力創出に役立っています。

やきもの散歩道内 土管坂 (愛知県・常滑市)



やきもの散歩道 土管坂

観光ボランティアガイドの説明を受ける外国人来訪者

地域の名産品である常滑焼の有効活用し整備された、地域に親しまれる散歩道です。手づくり郷土賞受賞後も、地域住民による清掃活動や各活動団体等によるイベント等が毎年開催され、地域のシンボルとして魅力創出に役立っています。また観光案内ボランティアガイドなどの取り組みにより、観光客も受賞時(H2)の約25,000人から、現在では約98,000人へと飛躍的に伸びています。

島ごと美術館 (広島県・尾道市)



島内に設置されている屋外彫刻の例

作品を舞台とした観月会

手づくり郷土賞受賞時の作品数は7点であったが、現在は17点の作品が島内に設置されており、これらの作品集を総称し現在は「島ごと美術館」と命名し、島全体を舞台にした文化芸術のまちづくりにふさわしいシンボルとなっています。さまざまな暮らしの中に置かれた作品は、いずれも海や街の風景にさりげなく溶け合い、住民の憩いの場となっています。

並木通り (広島県・広島市)



NAMIKI! クリスマス・ファンタジー

ボランティアによる環境整備事業

手づくり郷土賞受賞以降、並木通り商店街振興組合と近隣町内会が中心となり、ボランティア花壇の維持管理や、春夏秋冬それぞれの季節に応じた定期的なイベントを実施し、地域の魅力の創出に寄与しています。さらに近年は道路管理者の協力を得て、買物客の休憩スペースを確保するテーブル・ベンチを通りに設置するなど、積極的に街並みの機能向上・魅力創出に取り組んでいます。

(愛媛県・西条市)

アクアトピア(西条市公共下水道雨水観音水幹線)



施設のシンボルである「湧水モニュメント」



地域ボランティアによる美化活動の様子

当水系を整備したことにより、市街地には、鮎が棲みホタルも自生する清流が復活し、散策道や親水デッキ等を整備したことにより快適な水辺空間が創出されました。また水系を美化する市民ボランティア活動を誘発し、清掃活動や地元小学生による植栽などが行われています。平成4年には、水の都西条にふさわしい快適な水環境を確保するために四国で初めて「河川の清流を守る条例」が制定されました。

後田川緑道

(宮崎県・宮崎市)



後田川緑道



清掃等の美化活動

手づくり郷土賞受賞後、上流部に水遊びの出来る「せせらぎ水路」も整備され、さらに親水性のある緑道として地域に親しまれています。また緑道整備時から継続しているボランティアにより除草・清掃の美化活動を30年余りを数え、「ボランティアの精神による環境美化の活動を後生に伝えていきたい」という思いが芽生えており、自分たちの手で地域を美しく守っていかうと活動しています。